

8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9

家念書

卷之三

十三



遠鳴

御哥合

後鳥羽院

嘉祐二年七月

文庫

宿書

朝霞

山櫻

郭公

萩露

夜鹿

時雨

忍戀

久矣

羈旅

山家

題

左

女房

後鳥羽院

前内大臣

家良公

播大納言基家

沙弥道珍

入道大納言忠信卿

如願法師

右

從二位家隆

小寧相

正三位信成

如願法師

遠鳴

侍従隆祐

下野

少輔 家隆之女

散位長總

散位親成 信成之息

散位家清 家長相之息

藤原友茂 入道左衛門

善真法師

判

女房

一書 朝霞

左 持

絹古今

女房

從二位家隆

同

まめのあらぬ月をかづくらむいはるの身もれまん
丸すとあまかまくらむいはるの身もれまん
物と稱して難波のうへあへどりもれまくらむ
ふくらむよと空へじゆを花のまことひる
うふ三十一字の句とはぬとりとく素乃
門の三輩九ふねはとめひすらむれも富のと
川乃うちわとくじ事たくまくまくまくまく
ゑて十まあるひ六年のまことくわら今
まよこら通とめてあくよあくゆも從二

位家降るわゆふか乃よりよ前新古今の撰者
から八十余の令下のあいまくたゞノ郎の風
よまくはてぬ程よれとあくまく今一む
風じくの句とあくまくひもくのとくことを
そくらんとぞよこよよつて居乃玉ま
たあらよせうね半まふ十歌の事と
めあくまく書つへらう人の數ひろよア
とくもこれも三みよまふも一キミ六義乃
歌と学ふ事もへくあふの事乃くとおゑハ
風よちじすき方もかくあふれども見さ
れんが降とのそんうあめ人の歌つまほ
う角らうにびき愚老とりく家降よあくら
す道よましれもとくふもあくねども

いのさんあらんと傳ひてこと
うきとほくら折八代集の事ひせうすく見
ゆぢりうも併もあるあるれいあまくうもくに
いもんやちよせ乃人との歌のやうも
十余までのうちの一音を多くとくとされもた
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
うめをなすに六十のようひえ毫てくわりと
わらはりけりとくとくとくとくとくとくとくと
うとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
あくにあすもあくにあくにあくにあくにあ
くにあくにあくにあくにあくにあくにあ
くにあくにあくにあくにあくにあくにあ

トムニ筋劣と吹せまうせ

二番

左 お

前肉大臣

右

小寧お

左はもやどりれまのあゆみふるひま三ね
左の音やく黒のねじまのねとやまとアラシ
左を一ほのとあるとあはあよやれと清る
おさふらありくアヘウラ風よ望泡よろ
みをほつたまのわとくあめくにとよも
も思ひいきまわくやまくアリれどもふむち
くわりおとすへ

三番

左 お

松大納主奉家

左

正三位信成

左の音をとまでてん波せといづくねおもひ
左おちかくらむくをアユレと左神代の
衣あらまくらくやけむ

四番

左 お

沙汰道跡

左の音をとくらう角りだ代のまともうふ
如來法師

左の音をとくらう角りだ代のまともうふ
左の音をとくらう角りだ代のまともうふ
あらかずのゆくさひれとれられやくらうふ
左の音をとくらう角りだ代のまともうふ
あらかずとあらかずまるとくらう廣葉せらわに
仍以左高絶

五番

左 繕

侍従隆祐

朝日新さくしてやくねあひとあふきのをうつよ
割拾遺

左

下野

かひめのあの神を紅りひらそへてあそ日新う那
たすまやう難う右すかに人の神を紅よ
かひめの神を紅りひらそへてあそ日新う那
たすまやう難う右すかに人の神を紅よ
かひめの神を紅りひらそへてあそ日新う那
たすまやう難う右すかに人の神を紅よ

六番

左 オ

少浦

やまとみるふゑの月のよとださあよみうさとやす
ち
お位長總
おまえあまてあまなれるゆめよあうりふまうとまう哉

左 繕よゆふうとんすいやとづふあ
じてんゆれをよるゝまゆとて下うふ
霞よあくとつゝもくもくわくもくやせ
ゆくじぢすいはれをこもくまやくとて
唯てあゆ

七番

左 オ

お位翠成

まよそへまくそれくよがくに津河のあれ下に浦のそく

お位家清

まよそへまくそれくよがくに津河のあれ下に浦のそく
左 繕よゆふあくとくとくにあゆ

八番

左 繕

藤原友茂

胡まよよたけやあはにほアトモめうひのあつち山

右

呈毛の法師

まもるふすまえのぬくりああああああああああああ
たあまのよきん阿つち山トシテくばる
大秋のじきあめや室にあつじとじく野の
いよおりをあそひあそひあそひいよお

魚くやせたわら

九番 山桜

左

女房

人あらうはてあむむ色ふもものじよしに

左

家隆

すともゆきあらん桜さ山くたくさくもくまく
たきなけふあらやうくあくとくかく

十番

大 桃

前田大臣

あらうねまくわをゑのてそんのまの花をアラム

新拾遺

右

小宰相

ゆひうやまくとよみに咲たゞく野の桜よもぎ風
左ふとりふはよゆれよあらわまの花
れりよくわゆれよあらわまの花

十一番

左

桔大納言

あらうねあらう山のかみあふ一ひとまのそく

遠嶺

信成

かほくまやまの保乃まむらわすよかをり
たすあそき山のまきねふ一ひとせ
いつまくまのちあれとしをすうけ玉に
ゆゑのめぐらしくゆうきわとさくらん花
くもみに御難とをやつべーあのまうあく
アミされえぞせう難あまとりて務とひへ

十二番

た

道称

う門事ゆくむり下る詔とく／あるもあらよまの山
新拾遺 右 務
方にはくがりとく／様をまねまのやくわりとく
たすあくくにまことゆうにあらもとくとく

十三番

た務

隆祐

あじ／後成入道とまくよなくもとくふとく
別よあくやうよ／むじとくうまくとヤ竹
きをすいよ／くはくは務とく

十四番

た務

由潤

後は撰 太
さくも宣たあくまうをれたまくまくがくまの山
橋くまくまの山のまくとくとくぬけのまくまく
たすまくせう難とく／たす是へてくまくふる
懐のあくまう／てくられられともすくまくた務
務へまくまく

あらんにまづらかの色そよふかとやう山乃風のき風

右

長總

かづ赤やたぬ乃山をばれと宣にあらいくもひりを
たゞくとくやあたすゆゑのやアハだせり
とこくあくばるもくとせむもくアダヤク

以左あら

十五番

た 猿

親成

山ふもんすねくわ花稀人今ももさわぬまやあらん

太

赤猿

りまの山れいじわ山人をハシマリて梅とひままり
あすやうのひじらんゆゑあくまとくつをま
あらじよくやめ旅のすよと河一毛

みゆやせんきはとたのす山をも人を
とまあぬさくじもとくちや被のひよみ

十六番

た

友成

さくしゆくせんの山風よ葉とこて見ゆさん

右 猿

善吉の法師

をの色いあらよみ山風よ葉とこて見ゆさん
たすきせう難をたくスあふらよめ
あらうよあくにあまくとものかはやうき山
よおりひをくりあれともあれうちよやく
くまに口すかよふとすかとくすましも
うやまくも山のよみうよりひまれまへる

うううううううううううううううううう

十七番 郭公

女房

荆拾遺

たお もよもよもよもよもよもよもよもよも

家隆

やくそくむじの里のゆきよひくみよひくみよひく
たのめうにのゆよひくみよひくみよひくみよひく
やゆくんそくのうへまくまく下にゆゆせたを
うかはりくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

アヘン

十八番

太お

お内大臣

祚よう歌うの森乃ゑ祝ひくあわらうをたんくやう

舊本

小寧相

さとくになけやる有のみのゑ祝ひくはきねよひせ
たのめふとことくとまのとまくさん社ととそく
きけのとくとたまくめとくふととれくよ
活くじる太めすゑひくはくくわやハヤーと
いつやまへたてうよゆう宣あゑ

十九番

太お

檀大納戸

うゆうそあれうの風ふと祝あてうそくまた風ぬれ

太セイ 住成

あらうて何とくわとくわとくもやあくふくふく人
たふとくふあくとくとくとくとくとくとくとく

二十番

方角

道跡

大

ゆきのへらきとやまくよみがたくゆよもつまの下彦

右
如來法師

いきわざひやまう櫛りもむちうさくにゆくくそくに
左太とおもかげやくをねくも左のまのまの
いあまやけも仍以左為務

サ一画

左角

隆松

四イ

新後撰

左き乃か山のまた郭云たゞとちよもひなさん

右

下聖

たらふの匂ひよるもて山仰くもにすぬ日をうひ
左たうとくもくよもくのあくとほくにあすも
モーく難となくやすれども左ハ於まく一 猪

サニ画

左猪

魚

少捕

太

長猿

さあらまやひおうて郭云むるとひはあをふうく
左ああくとやくに左のすたく称をしりを
おまようてとひくとくへんらぎに何
すりあをにうかうとやがくもきあそ乃
あらあうといつ事なれそうもじもこ
とうひうそく備れたまく猪とまく

二十三番

左角

欽成

表題

備へばたゞよもやくの軍人ひまそやよみのまうのひきん

右 お清

うもとあらもたらもあらふ有無ふありわせまの郭云ば
をす郭もうふれそ取をまほりゆをゆあれよ
そがおけいきにやうせたすあひきの山乃
あきふ住人きまくとやれの月とやくさんや
いつあくと取をうやうりふ難をやくお
とくへ

二十番

左 お

友成

おやれびとくはまくまくはまくまくまくまくまくまく

右

善三郎法師

竹すきちまひにうみ林としまはくへ山郭云

大左とくにあがりがくあくをだねとくへ

廿五番 萩露

大

女房

えふゑふのきのうをやうくらんのひとく森乃と兵宿

右 第

家隆

又やくじよくやみくんとく森乃と兵宿
大左と殊うやうするやうに大歎まくやつし
又やくじよくじよく森乃とくら強よかくも
あつれてもやうだ務とくへ

二十六番

左

お内大臣

ゆき萩乃と森のとくのまくとも風吹たづ色をかかひ

右 第

小宰相

さめうよ風をほようじろひねやの藉よあひとあ
たまほゆるよひのそし風吹あらんえ
つゝこねあらうとてそしとへ古今よも
なれとしりくいえゆゑにわのすとくに
銀もやくうみわりをやあれと傍とくに

二十七番

大 お

捨大納立

ちむ宮のまかまのア藉處と一異のれ風吹とある

大

信成

ひくとあ天とふ原のほとく見てまくと藉乃うへのを
左をとるふとくとくやの仍る藉

サ、番

道殊

大

さくとん藉の下まもとあぬのと海を和乃うとす
太 緒

如願法師

さくのむとくみくら藉えよ涙をあくよあとのうれ
大 なまくやくまやくまやくまともともいと
あけとみて艶よしやも仍舊とく

サ、番

大 緒

隆祐

太

下野

宮城よりあの下風やるぬん藉よきあま藉のむ
太
きぬりするのねとさきじきひきよとれよ庭の藉つ
たまほよとくあこ藉のむとうくぐる
右うし難いみてはねども方れ緒とく

三十番

大 お

か浦

事とぬくまみいと君うとむきかであよのヌル
太

セ居

ねうらはやまんとあるのヨリく庭のあそびにたのも
たぶとくのりとりとくもあらうがよし

三十一番

大

鞆威

底どもう度の君原ひうてきいもる人の風ひよしん
太 猿 家隆

とく鷹のねのまへの君えよあまくやるのよきよきん

たす君の人なりうひとそじんすいきよく

よもぎをくわすくとくに宣くわゆなたすあ箇

サニ番

大

友茂

よまめあくちやみの原の枯葉よされうづよ君の下、落

太

吉三郎

いさくわらぬあく泪うさりぬん下葉をつくあそ君のつる
太ふとふの因神乃めや太のすよたうきことく
キリぬりんといふ人のよきよまの落とが
くげも落と人のよきよまの事ハモク
あうじれれまわともあふうち難きてハあくと

おくは

サニ番 夜鹿

女房

あまくわくの新すとく鹿のあとあくまく

太 猿

家隆

ての物の一毛の毫もあ片毫もあらざるをやめしん
ちうああまよじくのちもひくふといひそくと
墨にあおとけよつらぼよやくくそく
惟高のやまと序聖に拂うきたまくにためり
全くとくわいじりまことれひひくらわくあ
くわばあうりふかくこまみくにあとひす
けんじゆじゆじゆ称するたまうい秀吉とさん
まもる常のすうをくふ画をふあへにた務と
そく

世間番

左

筋肉大臣

あれうもあづれと血へ様ういくてしううの小男麻乃ひを

後方下

右 猪

小寧相

はきもあきこあとやれひ筋肉のうふまくにあひ麻乃ひをくせ
あくせはまうだんをいたのじきはあくとくふと
じくふきとくすしてうあうはすくとくやも
生えも猪とく

世間番

左 指

松大納言

右

信成

すのうじまくあねまくのうの麻乃ひを
方高廣とりうちの衣うくんとくわくあく
けりうとあくねりぬあやあきをうくんと
あく又をくわくわくわくわくわくわくわく

卅六番

左

名祐

祐より御や三月より又よりかよあそむる
後後拾遺

左 稔

如來法師

えよ風の御りくいふ遊トはうく康のよトとありそり
左すトまう遊トれども左すトたすトまう
ゆう遊トとどへ

三十七番

左 お

隆祐

ひとみのちやくねんまトれあすものありとせき

左

下野

勢トふつまト康のトあトいよト様トうトめトまトすト

三十八番

左

少輔

じよ文ト姫ト宮トあひのトおトのト内ト徳トあトふ

左 稔

毛總

あのトあらトちト八ト月トよトとトみトやト康トもトん
左すトまトのト内ト徳トあトりトおト小ト路ト一トさトやトふ
きトれトれトもトあトりトひトミトやトよトめトねトも
務トとトてトト

三十九番

左 お

親成

よトうトれトとト渾トはト風トよトもトよトけトくトうトりトゆ

新拾遺

左

家清

けトてトよトねトあトれトとト私ト風トよトアトよトくトあトのトむトん

褒鳴

左手のうちふかくまことかくちりあくしげら
こゝに詠るよはれにあすよお／もやとこう
あひのくらんとよあつたそりやうよひあ
らん麻を秋よすりわれもいはをやくをれきわ
とうわねみの森もくねくらてやくと左今よと
くあひたるよすとくて務員とくわゆととじ

四十番

左 稲

女房

やアモル森のモリ魂あきこむとおのとくとああくらん
右
音と法師
さま行わむよおの山のよいとひあのおもわ／＼ん
左手山の林のモリふはちもむととづくとく
くゆの左手のよおのやうせりらまきをまくと

四十一番 時雨

左 稲

女房

物おもてよもよぬひ終よへ林くらうめ方によひ時雨やくら
左 稲

女房

かくけまゆるにせよよひておまけま精神あれ
左手のうりこあひのくらんとあるだといふそれな
のことはばくあひまくせよひきせうくにほよ
スモねう左手をあくろおもくやうよやも皆
おとく

四十二番

左 稲

お肉大に

魚そよぎまれぬれとく時雨よもよしれむれ丘郷

遠浦

新續古今

小宰相

のとれ月本丸三日あみひのくみみねよのめつし
大右ともみ金きとやうよアモ左モヒー乃
人わかまこととおおさとみをみとみぬよのめつ
うひともあらやわくにうくくはるおよし

四十三番

大 稔

権大納言

日^葉じせふ檜原の時あるとあらの森よかうひも
大

信成

りの風てとあると限て時あるとほうろが水
古とあとそれもいとありみてやうとこやうなと
大寺宮跡の森よかうすともむけみてやんわると
信とよしへ

四十番

大

名跡

新續古今

大 稔

御法師

あ米の色をばあみかみふ源の皆の縁のあとうふ
大 稔

あみだりともあらのねああまくとひきまよは葉
方、うりくをみてけむとこゆてくおうく
まうくあくねくもい作のとすよりうよといふ
一うあまくとあらかまくげたくやんやんた
まやねくとてううもけくにたりうよの
飛ひげう下かまくまにまあくねくむと以右
あみ

四十五番

大

隆祐

かうれ月くとくぬのをよてもほよかれてゆるふくせ

太翁

下聖

三くわのまへまくあらえと今まもまきにゆゑまくら
左す是くぬまゆでまつても風よすれくとよ
やうづくくアゆと左すこゝもまきにゆゑ
まにくとじうお／＼くばの傍劣りく／＼むれ
ともむじ／＼まきとをげんあられよけれ
翁よ／＼

四十六番

丸

が獨

あくわゆく日はもいまづくさん浦のせをよきハス

太翁

毛猿

キ猿の尾よのねもうまくよしむくひきさせとやまくん

丸滿たとまく屋よまきそとひとソラあ／＼
アス／＼ねともたまうとこりねの國あよきまみの城
あ／＼ひきと／＼くま／＼くま／＼ありふあおりて互
／＼アモ翁よ／＼

四十七番

太翁

鞆成

かく月圓ありうき桜のむよちむくのをもくらうぬ

丸

家清

偽のをよやみじくれ月づれまくねよきれよ／＼も
左すとせすすハナタれとよう／＼ねすハナタ
ハモリ／＼と／＼めりれすやうたら右翁ひ
をとじうあいゆふときやう／＼あ／＼に御翁
あ翁

四十八番

大 お

支茂

わかれ月をやつむれの夕はぬうたりとあらうとアハレん

右

若木のばゆ

時風す風まくまくにちりもにしももゆふをひ山
たたらぬりとふうひうとアハレんとつうあー
くじゆくにねじしまよふをひの山又とうき
やううとそれゆくとひ室もしくとある
す常つひまくまくにあれともすくあー
もやくねおとく

四十九番 恋恋

大 お

女房

きとあゆとまつる神とまよわねまくまくまく

右

家隆

思ひてもかうたくねへ枕も枕も夜がせりてうき比
大けせりまくやくやんもあす年秋ハモハモのや
よ仔れともあくまく夜乃せめてうきあらとよ
やくおへくやもあらあきともちもとちもとちも
難うくまくねとく

五十番

大

お内大臣

はあともの室にまうやのまくねあらう人間

續後撰

大 猶

小宰相

おりよもよだまく一山城のまくの森のまよひと
大す下のまくのりのまくふくもとくわ
いつぶを歌うづづくゆり七文字とまくす

宣わる事あるば又の七文字乃内三文字は
とれに文字乃をもふもあらゆりへよや耳
よきくやあるとあら思ふとよ立てどもそ
とひくとてくはも徳ともそ

五十一番

大徳

捨大納毛

大徳

信成

あゑの涼山うぐれのまゝに落葉あくやよ絶れり
方不同じにあくやふアアレヨシ神の玉藻乃
えぞすれらばまくくやも仰いだあ徳

五十二番

大徳

信成

難波宮やアリミサノイムすれあう涙とまくゆ

大徳

如氣法師

芦の底よ青たちぬくタ網もみの風のもたらや絶えん
方不同じにあくやふアアレヨシ神の玉藻乃
そらやまくさんとりうれりくやもあ徳

五十三番

大徳

隆祐

おもつ事失なハ昔ふ返りてうくぬくよめく神の御

大徳

下聖

いふせんえうんじもまくかくて涙とあれよつまの小枕
たれゑよほのよし風情也あう又うんじ
うれなうとひくはきく^假いんじよせん
かくまくにけよみて絶めれもを國の常の

あちこちそれとひづけあらへとせんとされ
あつやあれともあひゆふ處をとくつを
あくにたもしりくわざれうまれそねよしと

五十四番

方 稔

少 補

まくまくとまくに涙とせんじて神よくうせられま

太

いじせん苦の下りみみし人よきれねるまくまく
左手思ひふかくはりあますされと左
りくあくひやくにちの苦のまくゆく水
といふいとゆくもなうたハ獨特

五十五番

大 稔

親成

あくふれみみ涙やかくさん思ひあくらせまのとせ

太

家清

かくくにい人やとくもじゆくおけめいりうよ袖の跡を
左右せりに下りをあくとアシテと左と大あふ
のとみふらきやとく平情よまくあれども
お墨すす小墨すすのまにまくさんと清う
あくと取る大きは先の又文字ふくあく
小とくげつわいくまくらまことあく
たの下の部下にまくと仍舊とく

五十六番

方 稔

友 茂

あくはみみの衣みのまくとまくと神れ月がま

太

若木は師

河ひきかずのゆさあいのせぬと津まうとうんをうじ
たすいと行くあくねとまとて駆ひみとあ
ち故山めよれいのほめととづくひそひ
をうぢれとまとてやふらますうおじ

五十七番 久遠

左 お

女房

あくにひきとひきてう風ふきもとものもあれ承うじ
太

家隆

え浦川つれむに中ふゆく水いきもせれぬあくからく
ちゆくじーじせれぬ洞あらぐとじうとく
るるたすめうれくるよれとてばれとてばれと
あきのよあくにきだく

五十八番

左 お

あ肉大に

侯後拾遺

左

小寧相

きとてはくと風ひの限としアモトとくう玉の花と
たま山あうをあたまとつづ跡よやまく
けのをすととくう玉のとくうふととく
えんよやんわとくうくふ

五十九番

左 繕

棺大納戸

やまくはなめぬくあふみのととよみ

左

信成

湯のまく潤とだりてもまづねうまで神の下にとせん
たすう無よハスミシムヒナラヌモトモトモ

よけくもあんばうやああ潤とありてモ
トクをつねと御うえいもつゝくアレゆゑふ下も
にいひきて神の手ふくもあんといふ事ふれよ
うわやうあらへきこえわぬ先あら

六十番

左

道殊

いは川をあらひそき洞り、うきいもとも

後撰

太翁

如來法師

あらまきにす二輪川の流れて人をあんわく
太翁をうけた計、かうじつめくとあら御
おほづちくはみようまほじとつるこ
とくがやくもはちうしんもあら、事うく
もう太翁にて難あくさんわを徳

六十一番

新拾遺

太翁

隆祐

右

下聖

年とてひくとくね樟うゑやゆづれをあれん
太翁せざるもくやむか歎くことく
くふてりやまにやもと上るに樟
うみてて下にゆづとくもハリあ
年とやあふも太翁であ翁

六十二番

太翁

少翁

まつもとほまやたぬんもと待人の心を

右

少翁

いきまくに只ひとりの聲を轟りゆくもあらず 桃の本指
たる三とせとばへ人の心やまこらめたり
たることともあらず 桃のこゑへおきもあり
くにやかにたはれ轟くよ

六十三番

太

新成

まつてもまわんあう三福のひしむちうりむちう

太 勝

家清

阿リそのもくすれと風ひふきまくらんのあまれ絶縁
たすりにまちやじまふくじりて位勢うされ
あくとひそむる下りまくらにあくとぬ様也
右すあくとアハにてあ勝

六十四番

太

友茂

あまとふふ年のことありそのもいくとお被ふ津づくよ

太

若狭守

のれみれと流すのせとやくやくふまゆひとくひなり

太

女房

ねうねうはうくねうもとてあうたれよとぢうとよ

太

家隆

勅拾遺

おもんじてそあくれふまゆのあうたくもぬれ

太

家隆

たすけずれやうふれどもまくちう難い

太

三番

演説とはももくとて物へかゝりきれむ太
あら篠

六十六番

た 猿

お内大臣

日射さるをあざすたまひのあらちをさゆくあらを

太

小宰けいざいお

左のたまらもあらぬあら猿の涙もりう神よがわづか
たまらめきよそたちまつひとひてあらち
をそとばけくらかくはるたまらうく
みゆれともねたまら猿ともて

六十七番

た お

松大納マツタナカミ

吹くじうふまうかひのくまふふを山うふあまのくら浪

太

信成

まくらぬ山みの夜にやくらまと月もくらみ猿鳴さるなづせ
たまき浦よしのうのうるる猿泊の川川くらゆを能も
ありく羈猿くびさるよもとくはるんあら河院百首
乃猿のうよハ泡のうみとよまくらゆじ
和音わねあくまく人こやけやハ羈猿くびさると泡とく能も
とくにハ因事いんじよ作れともやくくやくとくふふ
まくらうりくまうゆとまくらあくまくらちあ
羈猿くびさるひやきたうなれともちよ猿さるくまゆふ
あくらゆゑの

六十八番

た お

道殊

あくらゆゑの猿さるのまくらやまくらを櫻さくらみ月絃

新拾遺

大

如來法師

和風の原やくへ海までまくせよもかふくよもみの鈎舟
たとむにまぐのいがう一枝ようくへる
たはくせれのう身氣と云大やくへぬを
そあくせりといつれもかくそれハおゆ
そく

六十九番

たお

隆祐

まひ又のとひりあきせばくさむ月見

太

下豊

あらきあらぶ衣うちめり船よあらまう墨のあこ香
たちあらやうよみをうえんうらはくは
ゆゑにあらきやうじだ船よあらと

傷きてひきく

七十番

大 猶

少浦

かゑりやく在くまくすくわくわくわくを

太

長尾

かくう我をひ寄てりよとまくは故よとの浦
たとむにかふくらむくもよゆくやく

七十一番

大

欽成

まひかくまくぬく路より是をて渡りよまわぬ若り持

新後草

太 猶

われりのまのたれりうきよしほむのあき風

遠鷺

三二

古事記集のやうふ人のちとめてゐる

七十二番

丸

友茂

あともうえもみのうとうううまのまくを
右 繕

音の法師

思ひ出で片かなめのせむられあぬれすや神を病けど
た奇羅猿のうとうといはれりくもよまのり
うやじきくわがせくもみとまくせおゆく
くとよそくうじ思ひいつかみとまのりれハ猿
それとあねれいまくふ猿みとまのりれ
おゆく一れども高のひとくやまくへんれ
そひため縫

七十三番 山家

丸 繕

女房

朝のあまで山の月をうきひをやまひ

右

家隆

あいさとまくさんね鷺乃山室と風ひやうとむすびて
たかくりふおりいやうとまく山のあよけとよ
たやねと風ひやうびくはうくとよてお
りいせんを今とつとまくとよてお
うれわね一齋ハたの縫とよて

七十四番

丸 繕

お肉大に

あくねのねのねのねのねのねのね

丸

小宰相

住まうる山のりあくにまくらひの草とまくぬ浮世うりと
たまうりううのうめ山まとりうをう乃ん
優うけゆうあまうとまくぬうきせじうく
又のれよもとたとととととととととととと

七十五番

大お

棺大納モ

せうきき人ほてあくお小そじてわび山も住ひえちに
お
住うとうとあくまじはやまとあれうちあくのめぐもル
たおとおとん角すたうよまうも務劣る
くれ、おととく一

七十六番

大

道跡

蜀の乃里のまみもう枯てばぬとむね松の下つむ

右 猿

妙法師

何ゆにあくよ山も登ると人々がまとま鹿を下す
左のあくよ山もとまと阿多を傍影すや行人
ちゆうとうちあくみやれを神下にまつて仍
み猿

七十七番

大お

隆祐

あたとと人よきわめ方とも思つてたう山乃あくれ

太

下盤

かう底をまくは叶のまくとひまくまくまく

たかうりふまく事あるわ

七十八番

上三事

たお

少捕

三九八

太

長網

いづ文をのしませぬあくさめふいづひもなよ山乃あくま
太ふとすすね難であるお

七十九番

たお

釣成

山の庭乃はる鴨游すとて鷺そとすとて人をか

太

あ達

山の庭乃はる鴨游すとて鷺そとすとて人をか
太ふとすすね事すとて太庭の事すとてつうむせ
てひいきうやうやうとてし庭は業の生む事すと
てみだれうくまよとほねくととむうつと

ト

家長うねくとみーもくくとくあらねよアガレ
トシテキテキテキテキテキテキテキテキテキテキ

八十番

た

友茂

あひまの山の庭は役人すとすとすとすとすと

太

若主の法師

まくら寝乃ね延あれようり世とのれうとくまくらん
太ふとすすね難いもくれとも太ハ師やうと
まくら寝乃ね延あれようり世とのれうとくまくらん

太

三九七

女房 繕一員三指六

家隆

前內大臣 繕三員三指四

小寧相

基家 繕四員一持五

信成

沙弥道珍 繕二員七指一

如願法師

隆祐 繕五員一指四

下野

少輔 繕五員二指三

長德

觀成 繕三員二指五

家清

友茂 繕二員三指五

善真法師

